

# 老年看護技術論

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：高齢者の状態を総合的に評価する方法を学び、高齢者の看護に必要な知識と技術を修得することをねらいとする。これらについて主体的に追求し、効果的な老年看護の実践を展開する姿勢と能力を養う。

- 到達目標**：①高齢者を客観的に理解するための総合機能評価を説明できる。  
②高齢者とのコミュニケーションの基本的な方法を理解し実践できる。  
③生活機能障害を有する高齢者への看護技術の根拠がわかり実践できる。  
④高齢者の急変に対応できる知識、技術を理解し説明できる。  
⑤高齢者と家族が望む人生の最終段階の支援が考察できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎原井 美佳・村松 真澄

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースオリエンテーション、総合機能評価  
第2回 高齢者の急変に対応できる看護技術（意識障害、誤嚥、窒息、脱水、せん妄等）  
第3回 高齢者の生活の質を高める清潔・整容保持  
第4回 高齢者の生活の質を高める移動・活動  
第5回 高齢者の生活の質を高める口腔保健（1）  
第6回 高齢者の生活の質を高める口腔保健（2）  
第7回 高齢者の気持ちをくむコミュニケーション（1）  
第8回 高齢者の気持ちをくむコミュニケーション（2）  
第9回 高齢者の生活の質を高める食支援（1）  
第10回 高齢者の生活の質を高める食支援（2）  
第11回 高齢者の生活の質を高める排泄自立（1）  
第12回 高齢者の生活の質を高める排泄自立（2）  
第13回 高齢者と家族が望む人生の最終段階のケア（1）  
第14回 高齢者と家族が望む人生の最終段階のケア（2）  
第15回 高齢者の生活を生き活きさせるアクティビティ支援

■**教科書**：真田弘美、正木治恵 編集：看護学テキストシリーズNiCE、老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する。東京、南江堂、2013

■**参考文献**：適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：定期試験70%、課題レポート30%

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤		
定期試験	◎	◎	◎	◎	◎	問題の60%を正解していること	70%
レポート			◎		◎	レポート内容の適切性 妥当な記述量	30%
授業態度	◎	◎	◎	◎	◎	講義・演習へ取り組む姿勢	評価時の参考とする
出席						2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学臨地実習I、基礎看護技術論、症状マネジメント論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：老年看護学実習IIにおいて、本科目での学びを実践できるようにグループワークと演習をととした到達目標の達成を求めます。